NIE実践報告

1．タイトル：**「情報C」における新聞の読み比べ**

2．学校名

長野県諏訪二葉高等学校

3．実践者名（代表者名）

本山修

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

情報C　82人（2クラス）

6．単元（本時の学習課題）名

総合演習　第2節　課題演習　報道の比較

7．目標(狙い)

新聞社により報道の在り方が異なることを知り、メディアとしての新聞を例に、情報というものはどのように伝えられるか、複数の情報にあたることにはどのような意義があるかについて学ぶ。

8．評価の視点

報道のされ方の背景にある各新聞社の考えを読み取り、情報の伝えられ方、新聞を比較して分かったこと、情報を選択することの意義について自分の考えを持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

直前に「情報社会とモラル」という単元で、情報に接する上でのモラルを学んだ。それを踏まえて、情報の受け手としての在り方についてさらに考えを深めるために、「報道の比較」の単元を2時間設定した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①沖縄戦における集団自決で軍の関与の記述を削除した教科書検定に反対する沖縄県民大会（07.9.29）が全国紙・地方紙（琉球新報を含む）の計８紙にどのように報じられたか、時祭に紙面を比較させる。また、その背景となる検定意見に対する各社の社説（07年3~　4月）も読み比べさせる。（1時間）
②なぜ新聞社によって報道の仕方が異なるのか、読み比べをして分かったこと、どのような新聞や情報源を選んでいきたいか、複数の情報源にあたる意義、情報社会における情報の受け手としての在り方について、参考文献『インターネットは民主主義の敵か』（キャス・サンスティーン著　毎日新聞社）をヒントに考えさせ、記述させる。（1時間）

（留意点）
・多量の新聞のコピーを1つに綴り、生徒一人一人に用意する。
・各新聞社の記事の取り上げ方や、自分の考えをまとめる表を配布し、各自記入させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞によって報道の仕方が異なることをはじめて知った生徒もいたようである。情報の受け手としてこれからの情報社会のなかで、どのように情報を収集していくべきか、各自が考えを深めることができた。

12．成果と課題

新聞を比較したうえで分かったことや、情報そのものが持っている特徴（宿命）、情報の受け手として望ましい在り方について生徒自身が考えを深めることができた。一方で、生徒間で自分の考えを発表させる時間があまりとれずに終わってしまったので、情報の送り手としての在り方についても、考えさせていきたい。